

茨城県景気ウォッチャー調査結果（令和7年9月調査）

茨城県では、本県の景気に関する生の情報を得るために、県民から景気の状態を3か月ごとにアンケート形式で情報収集する県独自の景気ウォッチャー調査を平成14年から行っています。
この度、令和7年9月の調査結果がまとまりましたので、概要を以下のとおり公表します。

1 調査結果

～ 現状は3期連続で50を下回り、先行きは6期連続で50を下回った～



☆ここがポイント

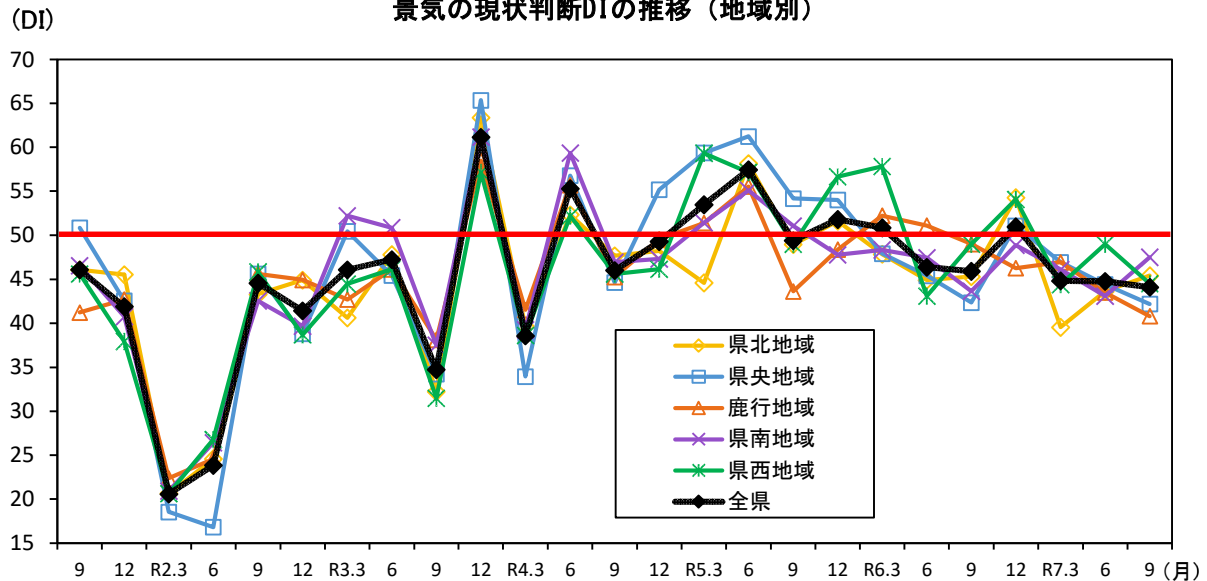
区分	景気現状判断DI		景気先行き判断DI		※DI (Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つ。景気 directional (景気が上向きか下向きか) を見るもの。 本調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比 (%) で乗じてDIを算出している。 <参考> DI値50超 : 上向き DI値50 : 横ばい DI値50未満: 下向き
	9月調査結果	前回調査との差	9月調査結果	前回調査との差	
県全体	44.1	△0.6	47.5	+2.5	
県北	45.4	+1.8	41.3	△3.4	
県央	42.2	△2.2	48.4	+3.5	
鹿行	40.8	△2.7	48.5	+3.9	
県南	47.5	+4.4	49.0	+7.5	
県西	44.5	△4.5	50.0	+1.0	

○県全体の景気判断DIは、現状は3期連続で50を下回り、先行きは6期連続で50を下回った。前回調査との差は、現状は0.6低下したものの、先行きでは2.5上昇した。

○地域別では、県西地域の先行きが50となったものの、他地域では現状も先行きも50を下回った。また、県南地域のみ現状・先行きとも前回調査との差が上昇した。

○ウォッチャーからは、物価高や猛暑、最低賃金の引上げに関するコメントが多く寄せられた。

景気の現状判断DIの推移（地域別）



〔調査の概要〕

- ・ 調査客体数 … 県内5地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに50名、計250名。
- ・ 調査内容 … 3か月前と比較した現状及び3か月後の先行きの景気判断（「良い」「やや良い」「変わらない」「やや悪い」「悪い」の5択）とその判断理由（コメント）の回答を集計。
- ・ 調査時期 … 四半期（6、9、12、3月）毎に実施し、翌月公表。（今回調査期間：令和7年9月5日から19日まで）
- ・ 回答率 … 98.4%（250名中246名から回答）

（地域区分）
 県北地域：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
 県央地域：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
 鹿行地域：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
 県南地域：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
 県西地域：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

〈参考〉

現状判断回答構成比

調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
回答					
良くなっている	1.6%	3.4%	4.0%	0.8%	1.2%
やや良くなっている	17.3%	24.6%	16.3%	17.2%	13.8%
変わらない	49.0%	49.2%	43.2%	47.9%	51.6%
やや悪くなっている	27.2%	18.2%	28.2%	28.2%	26.8%
悪くなっている	4.9%	4.7%	8.4%	5.9%	6.5%

先行き判断回答構成比

調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
回答					
良くなっている	0.8%	0.8%	2.2%	0.4%	1.6%
やや良くなっている	22.6%	20.3%	16.7%	16.0%	17.9%
変わらない	50.6%	48.3%	47.1%	52.5%	53.7%
やや悪くなっている	22.2%	24.2%	27.8%	25.2%	22.4%
悪くなっている	3.7%	6.4%	6.2%	5.9%	4.5%

2 分野別の動向

(1) 現状判断DI

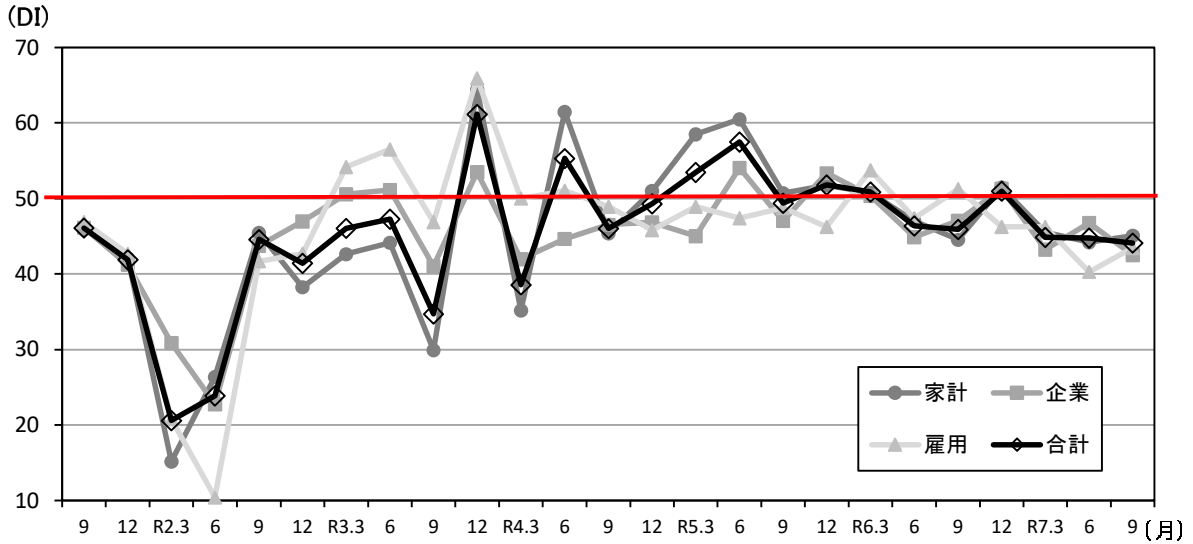
家計動向関連DIは、前回調査より0.9ポイント上昇したものの、3期連続して50を下回りました。

企業動向関連DIは、前回調査より4.3ポイント低下し、3期連続して50を下回りました。

雇用動向関連DIは、前回調査より3.1ポイント上昇したものの、4期連続で50を下回りました。

調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
分野					
合計	45.9	51.0	44.8	44.7	44.1
家計動向関連	44.5	51.5	45.5	44.2	45.1
小売関連	37.5	44.6	44.2	43.4	41.5
飲食関連	46.9	46.9	48.2	42.2	40.3
サービス関連	48.4	57.0	42.4	45.9	50.4
住宅関連	58.3	61.1	71.9	41.7	41.7
企業動向関連	47.1	51.3	43.2	46.8	42.5
農林水産業	42.9	56.3	41.7	43.8	46.9
製造業	43.8	48.8	37.5	46.2	36.9
非製造業	52.5	53.3	51.8	48.3	49.2
雇用関連	51.3	46.3	46.3	40.3	43.4

景気の現状判断DIの推移（分野別）

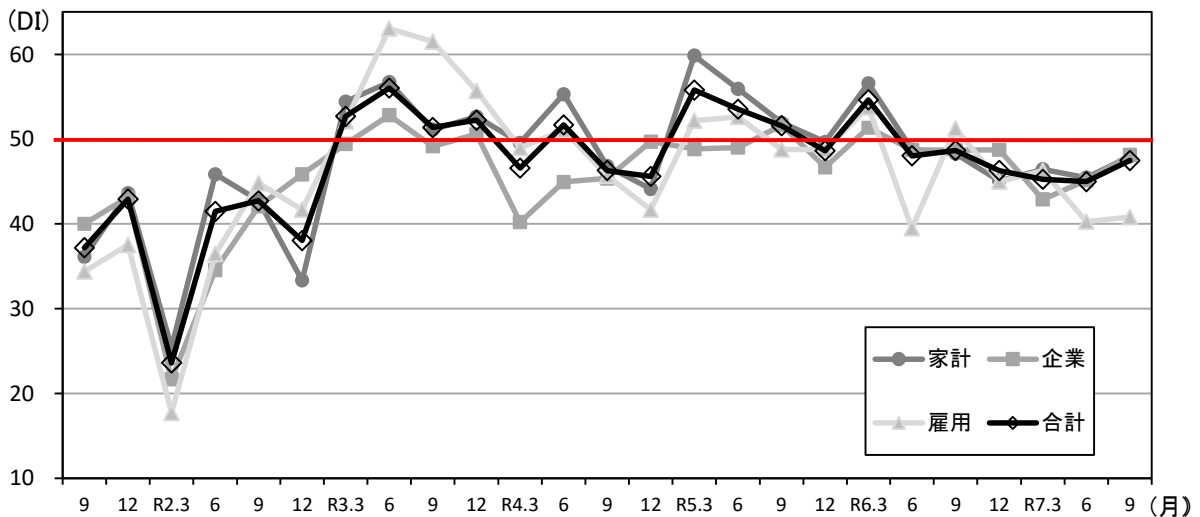


(2) 先行き判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より2.5ポイント上昇したものの、6期連続で50を下回りました。
 企業動向関連DIは、前回調査より3.0ポイント上昇したものの、6期連続で50を下回りました。
 雇用動向関連DIは、前回調査より0.5ポイント上昇したものの、4期連続で50を下回りました。

分野	調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計		48.7	46.3	45.3	45.0	47.5
家計動向関連		48.3	45.1	46.4	45.5	48.0
小売関連		44.8	44.6	47.1	44.3	46.6
飲食関連		51.6	43.8	44.6	45.3	38.9
サービス関連		49.6	46.3	47.5	48.0	53.7
住宅関連		55.6	41.7	37.5	36.1	36.1
企業動向関連		48.7	48.7	42.9	45.1	48.1
農林水産業		46.4	46.9	41.7	46.9	46.9
製造業		46.9	44.5	42.5	43.6	46.4
非製造業		51.7	55.0	43.8	46.7	50.8
雇用関連		51.3	45.0	46.3	40.3	40.8

景気の先行き判断DIの推移（分野別）



3 ウォッチャーのコメント抜粋

(1) 県北地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは45.4となりました。前回調査より1.8ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を3期連続で下回りました。

- ・ (観光型ホテル) 今月の売上げが、前年同月と比べて大幅に上回った。3か月前と比べても大きな伸び率となったので、景気は良くなっていると判断した。
- ・ (公共職業安定所) 来所する求職相談者数はこの3か月横ばいといったところだが、求人総数としては昨年より低下傾向であり、有効求人倍率も1倍を切っているため、やや悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは41.3となりました。前回調査より3.4ポイント低下して、横ばいを表す50を6期連続で下回りました。

- ・ (写真店) 年末にかけて、現在より売上げそのものは上昇していくはずだが、原材料費等による経費高騰や年賀状需要の極端な減少などが影響し、例年に比べると減益になることは間違いないため、やや悪くなっていると判断する。
- ・ (製造業(電気機械器具)) エネルギー関連は、注残が多いので作業は確保できているものの、新規受注が減少している。液晶・半導体製造装置関連は、受注、作業が減少し、当面回復が見込めない状況のため、やや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (林業関係者) 農家は新米の季節を迎え活気が出ているが、林業もこれからが本格的な最盛期となるので、精力的な活動を続け、景気上昇の一助となるよう努めたい。
- ・ (製造業(化学工業)) 最近、安い中国製品等を見かけなくなった。今後、本格的な物価高との戦いになるのではないかと懸念している。

(2) 県央地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは42.2となりました。前回調査より2.2ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回りました。

- ・ (住宅販売会社) 銀行金利が上昇していることから、住宅ローンの返済を不安視し、購買意欲が低下している様子が伺えるため、やや悪くなっていると判断した。
- ・ (製造業(一般機械器具)) 自動車、建設機械の仕事の出が悪くなっているため、悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは48.4となりました。前回調査より3.5ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を6期連続で下回りました。

- ・ (製造業(食料品)) 暑さが落ち着くことで、人流の回復が期待できる。また、大口の受注回復も予定しているため、良くなっていると判断する。
- ・ (不動産業) 建築関連の価格高騰は上限なく続いており、住宅やマンション販売などへの価格転嫁は限界を迎えている。このような状況は今後も継続すると予想されるため、やや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (建設業) 茨城空港の拡大に向けて動きが活発になっている。将来的に、増便や施設拡大が実現すれば、利用者が増加し、地元の景気向上・雇用増進が図れるのではないかと期待している。
- ・ (運輸業(道路貨物運送業)) とにかくドライバーを募集しても集まらないとの声を聞く。50代や60代のドライバーが頑張ってくれているので何とか凌いでいるが、将来的にドライバーの担い手や技術の継承に不安を感じている。

(3) 鹿行地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは40.8となりました。前回調査より2.7ポイント低下して、横ばいを表す50を5期連続で下回りました。

- ・ (コンビニエンスストア) 備蓄米が市場に出回ったことで、米価格の上昇が一旦頭打ちになり安心感は出たが、予期せぬ価格高騰に備えているのか、衝動買いする客はあまり見かけない。実際、客単価は下降傾向にあるため、やや悪くなっていると判断した。
- ・ (製造業(食料品)) 材料や経費の値上がりに伴い価格を上げたところ、消費者の買控えがあり、利益が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは48.5となりました。前回調査より3.9ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を6期連続で下回りました。

- ・ (求人开拓員) 事業所訪問をした際、製造業を中心に旺盛な求人を感じるため、やや良くなっていると判断する。しかし、若い求職者が少なく、アンマッチな求人もみられる。
- ・ (旅行代理店) 本来であれば、秋口(9~12月)は旅行需要が増えるはずだが、例年と比べて予約件数や客単価が低下している。売上げも低調なので、やや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (金融業) 今年3月末、地元製鉄所の高炉が休止した。その影響が、コンビナート所在市町村だけでなく、隣接市町村においても出始めている。港湾施設では、鉄鋼石を積んだ船の入港数が減ってきている。また、コンビナートの定期修理が、猛暑の影響を受け期間が延長されたところもあり、一部年間の通常工事が遅延している。
- ・ (保険業) 新車、中古車の市場は高騰し続けているが、高くても購入する顧客が増えている。

(4) 県南地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは47.5となりました。前回調査より4.4ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を8期連続で下回りました。

- ・ (農業関係者) 令和7年産米価格は、7月頃の情報でも高騰した前年価格を上回る傾向にあった。米の収穫時期である8月以降もその情報を超える取引価格となり、水稻農家の収入は大きく向上したと思われるため、やや良くなっていると判断した。これに伴い、農業施設等の充実を考える農家も増えている。一方で、米価の高騰が消費者に与える影響(米離れ)が懸念される。
- ・ (設計事務所) 新規客の問合せや商談数は多くなっているが、建築資材の高騰などで建築費が値上がりしているため、成約に至る数は少なくなっている。それに加え、建築確認申請の条件が変わったことにより、審査期間が長期化しているため、着工できず困っている現場が多数ある。このような状況のため、やや悪くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは49.0となりました。前回調査より7.5ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を6期連続で下回りました。

- ・ (ゴルフ場) これから先の予約状況を見ると、11月迄ほぼ満員で、土日に関してはコンペが多く、ほとんど予約が取れない状況である。また、売店のお土産が良く売れている。コンペの開催件数が増えたことが要因だと思うが、お土産を買えるということは、少し懐に余裕が出てきたためとも考えられる。このようなことから、景気は良くなってきていると判断する。
- ・ (学校就業関係者) 住宅用樹脂製品製造業の担当者と話をした際に、2026年から開始される二酸化炭素排出量取引への対応に苦慮しているという話があった。この企業は、カーボンニュートラルへの対応のため、環境に優しい製品の開発を進めているが、環境に優しい製品はコストが高く、負担は大きいと話していた。3か月後は2026年に入る直前でもあり、企業の負担増に伴い景気がやや悪くなると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (衣料品販売店) 最近、リカバリーウェアの売上げが伸びている。同じ服を買うにせよ、付加価値のある商品を求める客が増えている。
- ・ (小売業) テナント各店においては、接客や販売職の人材確保が引き続き困難な状況にある。近隣の千葉県や埼玉県と比較して、最低賃金の地域格差が顕在化しており、採用競争において不利な状況が続いている。

(5) 県西地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは44.5となりました。前回調査より4.5ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回りました。

- ・ (家電量販店) 毎年この時期は閑散期ではあるものの、特に、ここ2か月間の店舗客数の減少傾向が加速している。客の購買欲も下がっており、「壊れたから買う」といった感じで、最低限の買物に終始している感があるため、やや悪くなっていると判断した。
- ・ (製造業(光学ガラス加工)) 半導体業界の中でも生成AI関連以外の分野で受注量が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。同業他社では、半期の決算短信が営業赤字となっているところもある。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは50.0となりました。前回調査より1.0ポイント上昇して、横ばいを表す50となりました。

- ・ (レジャー施設) 株価がこのまま高い水準で安定してくれれば、ある程度良い状態になってくると思う。
- ・ (サービス業(コンサルタント業)) トランプ関税の影響で、輸出関係の製造業は先が見えない環境にあるため、やや悪くなっていると判断する。自動車関連部品製造会社では、関税の影響でメーカーからの発注が不確定になっており、製品の製造計画が立てられない状態にある。現在は縮小生産を行わざるを得ない状況で、今後も厳しい環境にある。

③ 特徴的動き

- ・ (商店街代表者) 市内にスーパーマーケットを核としたショッピングセンターが開業する見通しである。予定地の造成等が開始され、今後、市内の消費動向にも変化が出てくるのではないかとと思われる。このショッピングセンターには地元企業も出店することができるらしいので、地元企業の飛躍も期待される。
- ・ (人材派遣業) いくつかの大型テナント倉庫で、借り手が見つからず空フロアになっているところが散見される。また、地元の自動車メーカーも、生産が伸びておらず、関連企業での新規採用はあまり見かけない。停滞とまではいかないが、現状維持といった感じである。

(6) 多く寄せられたキーワード

以下では、ウォッチャーから寄せられた回答の中で多く見られたキーワードや、前回から増加したキーワードを含むコメントを掲載しています。

①「物価高、値上げ」に関するコメント 268件 (県北: 71 県央: 57 鹿行: 59 県南: 48 県西: 33)

- ・ (タクシー事業者) 物価高騰のため、無駄なものに金を使いたくないという人や、どこを削るかと考えている人が多い感じがする。
- ・ (小売業(菓子類)) 10月からまた原材料が値上がりする。これに伴い、利益率が下がると思われるので、今年いっぱい景気はやや悪くなると思われる。

②「夏の暑さ、猛暑」に関するコメント 101件 (県北: 16 県央: 20 鹿行: 31 県南: 16 県西: 18)

- ・ (衣料品販売店) 暑さのせいで来店客数が少なくなっているため、やや悪くなっていると判断した。9月だというのに、秋物に移行できない。
- ・ (都市型ホテル) エアコンの不調や修理、交換で予想外の出費が多かった。猛暑が長期化したため、例年に比べ光熱費が高額になった。

③「最低賃金、人件費高騰」に関するコメント 76件 (県北: 20 県央: 15 鹿行: 17 県南: 11 県西: 13)

- ・ (ドライブイン) 最低賃金の改定に伴うベースアップに期待して、やや良くなっていると判断する。年末に向けて、消費回復の起爆剤になってほしい。
- ・ (レストラン) 県の最低賃金の上昇率が凄すぎる。年間の人件費がとてつもなく上昇する。政府は将来時給1,500円を掲げているが、地方の中小事業者にとっては、かなり厳しい。扶養枠も早く変更してくれないと、短時間パートの労働時間を削らないといけないため、人員不足に陥る。人を集めるのもなかなか難しい状況であるし、中小企業としては景気が良い・悪いの前に、存続していけるかどうかの不安しかない。

(注) より詳しい情報については、当課ホームページを御覧ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>